

健診コース別一覧表

検査項目	検査内訳	一般健診			生活習慣病予防健診		人間ドック（半日コース）			
		一般健診 (A)	一般健診 (B)	団体企業 健診	一般健診 胃バリウム	一般健診 胃カメラ	Bコース		Cコース	
							バリウム 検査	内視鏡 検査	バリウム 検査	内視鏡 検査
問診票	服薬 ・ 既往歴 ・ 喫煙など	○	○	○	○	○	○	○	○	○
理学的検査	身体診察	○	○	○	○	○	○	○	○	○
身体測定	身長、体重、腹囲、BMI（標準体重）	○	○	○	○	○	○	○	○	○
血圧測定	収縮期 ・ 拡張期	○	○	○	○	○	○	○	○	○
眼科検査	視力	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	眼底検査						○	○		
	眼圧検査						○	○		
耳鼻科検査	聴力検査（1000Hz ・ 4000Hz）	○	○	○	○	○	○	○	○	○
呼吸器検査	胸部直接撮影	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	肺機能検査						○	○		
消化器検査	胃部X線直接撮影（胃ペプシノーゲン）				○		○		○	
	胃内視鏡検査					○		○		○
	腹部超音波検査						○	○		
循環器検査	心電図		○		○	○	○	○	○	○
糞便検査	免疫学的便潜反対検査				○	○	○	○	○	○
尿一般検査	尿蛋白、尿糖	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	尿潜血				○	○	○	○	○	○
	ウロビリノーゲン						○	○	○	○
	尿沈渣						○	○		
血液検査	一般血液検査	赤血球、白血球、ヘマトクリット値、平均血色素量		○		○	○	○	○	○
		血小板						○	○	○
		血液像						○	○	
		赤沈						○	○	
肝・膵機能検査	肝・膵機能検査	GOT、GPT、 γ -GTP	○	○	○	○	○	○	○	○
		ALP				○	○	○	○	○
		総蛋白、アルブミン、総ビリルビン、LDH、アミラーゼ						○	○	
血中脂質検査	血中脂質検査	LDLコレステロール、HDL-コレステロール、中性脂肪	○	○	○	○	○	○	○	○
		総コレステロール		○	○	○	○	○	○	○
腎機能検査	腎機能検査	尿酸、クレアチニン		○		○	○	○	○	○
		尿素窒素		○						
糖尿病検査	糖尿病検査	血糖	○	○	○	○	○	○	○	○
		HbA1c		○	○	○	○	○	○	
免疫学的検査	HBs抗原検査						○	○		
文書料	健康診断結果	○	○	○			○	○	○	○
自己負担額（税込）		12,617円	16,335円	7,691円	7,169円	9,169円	41,294円	45,628円	26,598円	30,932円

1.生活習慣病予防健診の一般健診に追加できる健診項目「付加健診・乳がん検診・子宮頸がん検診」もありますのでホームページをご確認ください。

2.健診コースとして、脳ドック・オプション検査「骨密度測定検査・胸部CT検査・腫瘍マーカー検査」を追加できます。

検査項目の内容と説明

検査項目	検査内訳	説明	
問診票	服薬 ・ 既往歴 ・ 喫煙など	自覚症状、家族歴、既往歴、服薬治療中の病気、禁煙の有無など基に医師の予備診断です。	
理学的検査	身体診察	医師による触診、聴診など行います。	
身体測定	身長、体重、腹囲、BMI（標準体重）	身長、体重のバランスをチェックします。BMIの求め方＝体重÷身長÷身長	
血圧測定	収縮期 ・ 拡張期	血圧は心臓が収縮または拡張した時に血管壁にあたる血流の強さを表しています。	
眼科検査	視力	近視かどうか調べます。	
	眼底検査	高血圧、糖尿病、動脈硬化の進行度や眼球の病気などの発見の手がかりに繋がります。	
	眼圧検査		
耳鼻科検査	聴力検査（1000Hz ・ 4000Hz）	難聴の有無や程度がわかります。	
呼吸器検査	胸部直接撮影	肺の病気の有無がわかります。	
	肺機能検査	肺の換気能力を調べ、肺・気管疾患等の発見に繋がります。	
消化器検査	胃部X線直接撮影（胃ペプシノーゲン）	胃がん、胃・十二指腸潰瘍等の病変を見つける手掛かりに繋がります。	
	胃内視鏡検査	胃がん、胃・十二指腸潰瘍等の病変を見つける手掛かりに繋がります。	
	腹部超音波検査	胆石・肝臓の病気等をチェックします。	
循環器検査	心電図	心臓の状態をチェックし、不整脈・心疾患等がないかを調べます。	
糞便検査	便潜血反応検査	出血の有無を調べ、大腸がん発見に繋がります。	
尿一般検査	尿蛋白、尿糖	蛋白：腎疾患や尿路系等を調べる検査です。 尿糖：糖尿病の初期検査です。	
	尿潜血	血尿を発見する手掛かりにつながります。 腎炎・腎結石・膀胱炎などで陽性となります。	
	ウロビリノーゲン	増加あるいは欠如を知ることができ、肝臓・胆道系疾患の存在を推測できます。	
	尿沈渣	尿を遠心分離して得られる沈殿成分を顕微鏡で観察し、異常成分の有無を確認します。	
血液検査	一般血液検査	赤血球、ヘマトクリット値、平均血色素量	貧血・多血症等を見つける手掛かりに繋がります。
		白血球	好中球・好酸球・好塩基球・単球・リンパ球から構成されており、病原菌に対する防御作用や免疫反応などの働きをしています。感染症や、種々の炎症、白血病などで増加しますが、減少する疾患もあります。
		血小板	出血が起きた場合それを止めるための重要な働きをしています。種々の原因でこの値が低値になると出血が起こり易くなります。
		血液像	赤血球・白血球・血小板の形態を顕微鏡で観察し、白血球の分類を行います。白血病などにみられる異常細胞の有無も観察しています。
		赤沈	感染症・炎症・肝疾患・悪性腫瘍など多くの疾患で血沈が促進します。経過観察に役立ちます。
	肝・膵機能検査	GOT、GPT、γ-GTP	GOTは筋肉や肝臓にもありますが筋肉に最も多く含まれている酵素で、GPTはほとんどが肝臓に含まれる酵素です。両者が高い時は肝疾患など、GOTのみ高い時は心筋障害や横紋筋疾患、重労働などでも増加します。γ-GTP主に、肝臓・胆道系の異常やアルコール性肝障害などの疾患で上昇します。
		総蛋白、アルブミン	総蛋白、アルブミン量に異常をきたす疾患の有無や栄養状態の評価にも用いられます。
		総ビリルビン	肝機能障害で高値を示し黄疸の指標となります。肝炎や胆管の通過障害などが原因で増加します。
		LDH	あらゆる臓器にある酵素で、特に肝疾患や心筋障害の疾患などで上昇します。
		アミラーゼ	唾液にも含まれていますが、主に膵臓から分泌される酵素です。急性膵炎や耳下腺炎で増加します。
	血中脂質検査	LDLコレステロール、HDL-コレステロール、中性脂肪	体に大切な成分のひとつで、増えすぎると動脈硬化の一因になります。LDL-CHOは悪玉コレステロールと呼ばれ、動脈硬化の危険因子となります。HDL-CHOは善玉コレステロールと呼ばれ、動脈硬化の予防効果があるといわれています。
		総コレステロール	中性脂肪：栄養として蓄えられますが、増えすぎると肥満、脂肪肝、動脈硬化の原因にもなります。
	腎機能検査	尿酸、クレアチニン	食事内容、アルコールなどで上昇します。痛風や腎性結石を引き起こす原因となるといわれています。腎機能障害があると増加します。筋肉質の人や多量の肉食が続いた後などで高値になることもあります。
		尿素窒素	腎炎など、腎機能が低下すると増加します。また、多量の蛋白摂取や脱水症状でも軽度増加します。
	糖尿病検査	血糖	血液中の糖の値を示します。値が高いと糖尿病が疑われます。
		HbA1c	1～2ヶ月間の平均的な血糖値の状態を反映します。高血糖状態が長く続くと高値を示します。
	免疫学的検査	HBs抗原検査	B型肝炎ウイルス感染の有無の確認検査です。手術前、検査前、妊婦検診などで測定されます。
		HCV抗体検査	陽性の場合はC型肝炎ウイルスの感染を意味します。C型肝炎の診断、手術前、検査前、妊婦検診などで測定されます。
	腫瘍マーカー検査	・CEA	結腸、直腸、肺、胃、膵、膀胱などの癌で上昇し、結腸・直腸癌では患者様の70%以上で陽性を示します。早期癌での陽性率低く、疑陽性を示す疾患として肺炎、肝炎、肝硬変、潰瘍性大腸炎などがあります。
		・CA-19-9	膵臓癌、消化器系癌のスクリーニング検査です。治療効果の判定や経過観察、再発の早期発見のために測定します。膵炎、胆管結石、肝炎などでも上昇します。
・AFP		肝臓癌のスクリーニング検査です。肝臓癌の90%が陽性になります。肝臓癌の診断、経過観察、転移や再発の早期発見のため測定します。肝硬変、肝炎などでも上昇します。	
・SCC		子宮頸部扁平上皮癌、肺癌、食道癌、皮膚癌などで上昇します。治療の経過観察にも用いられます。	
・CA125		卵巣癌のスクリーニング検査です。卵巣癌の80%が陽性になります。また、生理周期や妊娠で高値を示すこともありますので、患者様の状態を確認する必要があります。また、子宮体癌の進行例や再発例で高い陽性率を示します。	
・PSA		前立腺癌のスクリーニング検査です。高値の場合、前立腺癌、前立腺肥大、前立腺炎も考えられるため、その他検査との総合判断が必要です。	
脳ドック検査	頭部MR I、頭部MR A、頸部MR A	脳梗塞、ラクナ梗塞、脳血管の動脈硬化や脳動脈瘤などの有無について調べ早期発見に繋げる検査です。	
胸部C T検査	C T検査	胸部C T検査にて肺がんなど異常の有無について調べ早期発見に繋げる検査です。	
乳がん検診	視触診、マンモグラフィー	エックス線撮影を行い乳がん、乳腺症など異常の有無について調べます。	
子宮頸がん検診	子宮頸部細胞診	細胞を採取して、異型な細胞「子宮頸がんなど」の有無について調べます。	